



慶應義塾大学ビジネス・スクール

初めてのケース・ライティング、 初めてのディスカッション・リーディング —林すみれの一年間—

5

初めてのディスカッション・リーダー（DL、ケース・ディスカッション授業の講師）を終えた夜。
10
林すみれは、疲れていたのか早めに寝入ったが、真夜中にふと目覚めた。

今回のケースに取り組みはじめたのは、昨年の春。あれから経験した様々なことが、思い浮かんだ。この経験をどのように整理し、消化すればよいのか。準備は授業本番で活かせたのか。参加者は何を学んでくれたのか。考え始めると、ますます目が冴えてくるのだった。

15

春

1.はじめてのケース・ライティング

外堀通りの桜並木の下を、林は法明大学の経営大学院（MBA）に向かっていた。母校を修了した
20
のは、2年前。その後は都内で個人事業を営んでいたが、時折仕事や勉強の相談で、在学時から指導を受けていた高花教授を訪ねていた。

研究室のドアを開けると、高花教授はいつもどおりの穏やかな笑顔で迎えてくれた。教授は、経営大学院でながく教育に携わった組織行動学の研究者であり、ケースメソッド教育の大家として知られている。

1時間ほどの面談を終えると、最後に教授は林に言った。

25

「そういえば、貴方は以前からケースメソッドに関心をもっていましたよね。今年は自分自身で、経営学の教材としての『ケース』をひとつ書いてみたらいいかがですか。貴方の同期生仲間の経営者の方に

.....
このケースは、ケースメソッド教育の初心者に資するよう、実際に行われたケース・ライティングとディスカッション・リーディングを取材して作成された。登場人物はすべて仮名である。

本ケースは慶應義塾大学ビジネス・スクールが出版するものであり、複製等についての問い合わせ先は慶應義塾大学ビジネス・スクール（〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉4丁目1番1号、電話 045-564-2444、e-mail:case@kbs.keio.ac.jp）。また、注文は <http://www.kbs.keio.ac.jp/>。慶應義塾大学ビジネス・スクールの許可を得ずに、いかなる部分の複製、検索システムへの取り込み、スプレッドシートでの利用、またいかなる方法（電子的、機械的、写真複写、録音・録画、その他種類を問わない）による伝送も、これを禁ずる。

30

Copyright © 高木晴夫、鶴ヶ谷理子、市村真納（2018年5月作成）